

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

2015～2017年度の統計データを扱うタイプの問題に戻った。大量の図表を見て、それだけで腰が引けてしまう人も多いだろう。設問の数も4つと、近年では多い。ただし、多くの図表を参照する必要があるのは、実際には問題(1)と(2)だけで、図表をしっかりと読み解く必要があるのは(2)だけだ。

(1)では、「2011年時点で予測された10のリスク予測」のそれぞれの成否を判断する根拠となる図表を選ぶことが求められている。これは、資料1を読んだ上で図表を見て判断するわけだが、「サイバー・セキュリティ問題」「大量破壊兵器」のようにほぼ一義的に確定できるものもあれば、解釈次第で判断が分かれるものも多い。考えすぎるといたずらに時間を浪費するだけなので、自分の知識の範囲内で確実なものだけを選ぶほうがよい。ただ、いずれにせよ、(2)で論じるつもりリスクについては、(2)の答えと矛盾しないように選ぶ必要がある。

(2)では、「経済格差」「サイバー・セキュリティ問題」「人口動態の課題」の3つのリスクから1つ選んで、データにもとづいて予測の成否を論じることが求められている。これは、通常の4部構成で書けるだろう。最初に、予測が当たっていたかどうかをずばり示した上で、第2部以降でそれを検証する形にするとよい。最も扱いやすいのは「サイバー・セキュリティ問題」(根拠となる図表がAとTしかない)だが、「経済格差」と「人口動態の問題」は論じ手の解釈次第でいろいろな図表を使えるので、そちらのほうが論じやすいかもしれない。そこは自分で判断してほしい。

(3)は、資料1で挙げられたもの以外のリスクの事例を説明するというもの。地球温暖化などはすぐに思いつくだけに、それが禁じられるのは少々痛い。だが、日々の国際ニュースに接していれば、テロの拡散、主要国の経済摩擦、地域紛争の拡大、監視社会化の進行など、いろいろと思いつくはずだ。その中から、ある程度知識があって説明可能なものを選べばよい。ただし、あくまでも「グローバルリスク」が問題になっているので、日本国内でしか問題になっていないような事例を挙げては答えにならない点に注意。

(4)は、(3)までの流れからするとやや異質な問題。図表を見れば、年ごとの違いがあるとはいえ、大きく言って、北極海の最小海水面積が縮小の一途をたどっていることは一目瞭然だ。その原因として考えられるのは、やはり地球温暖化しかない。また、「その推移によって生じる様々な

変化、リスク」については、北極圏の生態系の変化のほか、「海氷が少なくなるとその分海面の温度が上昇するので、それが世界規模の異常気象につながる恐れがある」ことなどを書くといい。

「好機」として思いつくのは、「北極海が航行可能になる」「北極海の資源にアクセスしやすくなる」「世界的な温暖化対策に取り組むきっかけになる」くらいだろう。ちなみに、海氷がいくら溶けても海面の上昇にはつながらないので、その点は注意しよう。いずれにせよ、この種の問題は知識がなければどうしようもないので、むやみに時間をかけすぎないほうがよい。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>